

平成20年 新年のごあいさつ

上島町の皆様、あけましておめでとうございます。

輝かしい新春を迎え「ふるさと上島町」でのお正月は、炬燵の温もりとともに、家族愛に包まれた心あたたま癒しの時間になっているのではないのでしょうか。

昨年を顧みますと、1月の愛媛県知事選挙をはじめ4月の県議会議員選挙、7月の参議院議員選挙など、私たちの代表を選ぶ機会が数多くありました。特に参議院議員選挙の結果は与野党が逆転し「ねじれ国会」という言葉も使われ、立法府としての機能が滞りました。しかし、全ての国会議員の目的は「国民の幸福」であり、この選挙結果が現在の地域間格差を是正し、地方を再生する施策を講ずるなど、小さく弱い地方を重視する方向に進むことを願っています。

上島町においては、昨年の広報新年号で「私も、美しい郷土を地域の力で創り上げ、周りの人や様々なものに敬意を表し、文化や芸術、伝統などを重んじ、金銭や世俗的なものを低く見る。そういう土壌を育くむことが上島町にとって最も大切な事ではないかと考えており、本年はその実践に向けての施策を組み立てたいと考えております。」とご挨拶したように、経済や産業の振興だけでなく、上島町の底力となる様々な土壌育成施策に、町民の皆様や関係者のご協力をいただきながら取り組んでまいりました。

その結果昨年の11月20日、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、福田総理大臣をはじめとする三権の長から祝辞を賜った「地方自治法施行60周年記念式典」において、地方自治行政の運営に創意工夫し住民の福祉増進に多大な力を尽くすと共に、優れた施策を実施し地方自治の充実発展に寄与した市町村として、上島町は地方自治功労者総務大臣表彰を受賞いたしました。

この受賞は町として愛媛県で唯一であり、施策として予算承認をいただいた議会や、町民の皆様あるいは先人のご尽力に改めて感謝を申し上げます。

さて、人間の体は平均して約60兆の細胞からできており、その中に遺伝子が存在します。今から4年前にヒトの全遺伝子の解読が終わりましたが、多くの遺伝子は眠っていて、本当に働いているのはせいぜい5～10%しかないことが分かってきました。寝ている良い遺伝子のスイッチをオンにしてたくさん働いてもらい、不要な遺伝子のスイッチはできるだけオフにして眠ってもらえば人間の可能性は何倍にもなるそうです。その生き方の鍵を握っているのが「ものの考え方」にあり、「楽しい」「嬉しい」「喜ぶ」「感動」「祈り」といった良いストレスが遺伝子のスイッチをオンにし、その突破口が「笑い」の研究で開けそうです。

新年の上島町行政運営においても、「よく見る よく聞く よく話す」を行動指針として今後も真面目に取り組むことはもちろんですが、寝ている良い遺伝子のスイッチをオンにしてたくさん働いてもらえるよう、町民の皆様が心から「笑い」「感動」行事も盛り込み、経済と財政、文化と伝統が調和した「プライド・オブ・プレイス」ここに住んでよかったという地域に対する誇りを育てたいと考えています。

平成18年の広報新年号において、上島町が今後取り組まなければならないプロジェクトとして「上島架橋」「産業振興」「立石港周辺整備」「漁港整備」「消防庁舎建設」「ごみ焼却場建設」「海光園建設」「少子高齢化対策」「教育環境整備」「へき地医療対策」「高度情報化対策」「防災無線デジタル化」「公営住宅建設」などを挙げさせていただきました。現時点で目標を達成できている施策もありますが、それ以外についても来年あるいは数年後の完成を目指し、具体的な事業として取り組んでおります。

「決断は継続なり、継続は力なり」という言葉があるように、道半ばのプロジェクトや新たな施策についても公約として、長期的な持続性を持って実現させることが、これからの私に課せられた責任であると考えております。

明治20年に乃木将軍は、その当時には聞きなれない「社会主義について」というフランスの新聞記者の質問に対し、「武士道というのは身を滅して仁をなすものである。社会主義は平等を愛するというのが、武士道は自分を犠牲にして人を助けるものであるから、社会主義より一段上である。」と答えています。

私も現在50歳になり、2人の子供も大学生として独自の道を歩み始め、自らの時間を今までお世話になった上島町や地域への恩返しに使える世代になりました。

今後も「天命として仁を為す」ことを心に深く刻み、上島町の発展・飛躍のために全力を尽くしてまいります。

上島町民の皆さん、新年も「明るく・楽しく」元気を出して頑張りましょう。



上島町長
上村 俊之

海と緑と太陽と

笑顔でつながる上島町



上島町議会議員
田窪 忍

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様方におかれましては、明るく健やかで心新たな新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年中は、国政における激動の1年であったように思います。事務所費・年金問題等で政治や行政官庁への不信感の高まりの中で、国政選挙が行われ、与野党逆転という結果が生じ、ねじれ国会の中での内閣総辞職や総理大臣の辞職により、福田康夫総理大臣が誕生いたしました。

いつの世にあっても世論の厳しい目を大切にして政治や行政に携わらなければならないことを身をもって感じる事となりました。

上島町議会議員の任期も本年11月に任期満了となります。

町民の皆様方からの力強いご支持やご協力のもとに4年が過ぎようとしていますが、改めて「町民の町民による町民のための町政」であったかどうか、古来より「政（まつりごと）は民を養うにあり」の言葉のごとく、民心の安寧こそが第一級の善政であると言われております。

上島町も離島という交通のままならぬ不便の中、離島同士の合併という状況で、混乱・混迷の中から、ようやく新しいまちづくりの方向性に向かって走り始めたように感じます。

しかしながら、まだまだ各地区の社会資本整備や文化・意識面の大きな格差の認識を感じるものの必要性があることも事実でございます。

今後とも、今以上の人的交流と文化・意識の融合を基盤に据えた住民活力の創出のための諸活動の支援が重要であり、きめ細やかな行政施策が求められているところでもあります。

合併後の地方行政は、三位一体改革という国の方針に沿って、負担を地方に転嫁した現状の中では、自主財源の乏しい地方行政の過酷な行政運営を強いられ、格差は広がる結果となっておりますことは、どこの市町村にとっても深刻な状況にあると思われまます。

そのような厳しい行財政運営の中で、極端な自主自立のうたい文句や地方分権と称する諸制度等の定着には、その地域にあった真の地域住民の適正な判断と英知の結集が必要であり、「急いで、事を仕損じてはならない。」と思います。

住民に対する情報開示は勿論のこと、適切な選択肢を含めた、基本的な行財政の運営方法の周知徹底と、より一層の住民参加型の協働型行政施策の推進が不可欠となります。

町議会としましては、上島町のイメージキャラクター「四国の四国」「上島四兄弟」のごとく、各離島地域の住民の皆様方の負託に応え、住民の代表として、上島町の意味を決定する重大な責務を有していることを自覚し、誠心誠意努力してまいります。

町民の皆様方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年も上島町にとって、明るく健やかで平穏な1年でありますよう祈念するとともに、町民の皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。